



北浦の旅の終わりに
北浦家族旅行⑧

人生はよく旅にたとえられ、出会いがあり、別れがあり、終わりがあ

えられる。出会いがあ、別れがあり、終わりがあ、人生の旅で、特に大きなウイトを占めるのは同伴者だ。一般論でいえば配偶者であり家族である。

今回のシリーズのタイトルを「家族旅行」としたのは私なりの思い入れがあるからだ。現代は核家族が当たり前となった。物質的に豊かな社会は結果として他人を必要としない傾向がある。そんな豊

かさ本に豊かといえるのだろうか。私は原則、大家族主

的にでも日常的に家族が交わることを考える必要がある。大家族主義時代なら、せめて旅ぐらい夫婦でというところだろうが、今日はせめて旅ぐらいは家族旅行と思う。

人間関係が

希薄になった。それは家族関係にも言える。だから意図的に交わることが大切だというのが持論だ。

そんな希望がかなえられた今回の旅。その巡礼記を読んだ妻が「巡礼記というより旅行記になっていて」という。五十年以上の同伴者である妻の視点はいつも私を的確にとらえている。

とはいえ、北浦の情報としてあと二カ所紹介しておきたい。今回の旅で最も人が多く、



楊貴妃の里にある楊貴妃像

しかも私が全く知らなかった所。「元乃隅(もとのすみ)稲成神社」がそれである。狐のお告げにより昭和三十年に津和野の太鼓谷稲成から分霊されて出来たというからまだ新しい神社である。そこから下の海岸の「竜宮の潮吹き」まで百二十三基の赤い鳥居でつながり、実に見事である。

アメリカのニュース放送局、CNNが「日本の最も美しい場所三十一選」に選んだことが、そのせいか細い山道の奥にあるにもかかわらず大勢の人が訪れていた。

もう一カ所は「楊貴妃の里」。泊まったホテル「楊貴館」の名前のように、こちらは昔から伝わる楊貴妃伝説である。世界三大美人の一人、

楊貴妃は玄宗皇帝に愛されたが、反乱で殺されるところを船で脱出、流れ着いたのが長門の向津具半島。楊貴妃はここで亡くなったという伝説である。さて、北浦の旅の最後は、娘の家がある湯田温泉に一泊する。話題にと「女将劇場」のホテル常盤で部屋に露天風呂のあるぜいたくを楽しませてもらった。このことも書くつもりだったが、実は三月末から四月初旬にかけて長女と三人で聖地エルサレムへ巡礼した。少しでも早くエルサレム巡礼について書きたいので、北浦家族旅行シリーズは今回で終了。次女から長女にバトンタッチした世話のかかる親の家族旅。世話になり迷惑をかけるのも大切な交わりの一つと勝手の良い自分に呆れる。さあ、娘の好意に答えて今度こそ良い巡礼記を書くぞと決意しつづ...



そのせいか細い山道の奥にあるにもかかわらず大勢の人が訪れていた。